

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600238		
法人名	社会福祉法人 六心会		
事業所名	グループホーム里(みちのり)/ ユニット2		
所在地	大阪府吹田市千里山竹園1丁目50番18号		
自己評価作成日	平成26年5月31日	評価結果市町村受理日	平成26年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所2年目の施設であり、日常業務をスムーズに行なえることが当面の目標。日勤帯から夕食後まで利用者の状況に合わせて入浴を行なっています。また、共同生活室ではLED照明により「ブライトケア」を導入しています。夕方以降にLEDを白熱電灯のような温かみのある光に変えることで、心のやすらぎを醸し出す効果がみられます。空調ダクトから除菌防臭効果のある薬品(リスパスneo=クレベリン)が排出されており、全館の衛生管理が行なわれています。それら効果もあって、この冬はインフルエンザやノロウイルスの感染はありませんでした。今後は仕組みや設備面によるのではなく、利用者おひとりお一人のペースに合わせた、心の通う介護を目指したいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで唱和している法人の理念を、グループホームの理念として日々の行動やケアに反映させている。事業所の理念は、その方向性をまとめている段階。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の高齢者施設とは行事を通して関わっている。周辺のマンションに住む比較的若い方も施設見学に来られることがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての職員の理解が徐々に進みつつある。今後は地域のみなさまの認知症への理解が深まるような活動に取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議継続されている。会議で出たご意見や提案等は会議録や申し送り、カンファレンスを通して職員に伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは運営推進会議などを通して連携している。また、高齢政策課の「音楽療法推進事業」は2年目を迎える。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は不審者侵入防止のため、利用者が開閉できないようになっている。ユニット扉は日中開放されている。OJTや研修を通して身体拘束の理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設前、虐待についての研修があった。その後のフォロー研修は未実施。法人としてのマニュアルはあるが、担うべき委員会の活性化が課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度を活用している利用者がある。制度の利用を望む家族もいるので、概要についての資料を職員に配布した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要な事柄を繰り返す、具体的な例を挙げる等、時間をかけて説明している。また、質問にはていねいに答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時にご意見やご要望やご要望を伺うよう努めている。折に触れ、何でもお話いただけるような関係の醸成を目指している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	多くの職員が集まれる会議が開催しにくい。運営についての意見は管理者が随時職員と面談して拾い上げ、代表者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	第三者の視点として外部のコンサルタントを導入し、就業環境も整いつつある。また、現場の職員の声が反映されるような仕組みができつつある。管理者が個別に面談して職員の声を拾うように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員体制が整いつつあり、外部の研修へも参加を企画していきたい。OJTがまだ主流。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間の交流は連絡会を通じて行なっている。施設間交流の研修に職員が参加できるよう、職員のレベルアップをはかりたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、現状だけでなく、幅広い視点で時間をかけて面談を行い、ご本人だけでなくご家族とも関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人への面談だけでなく、ご家族にも施設に来て頂き幅広くさまざまな話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談ではグループホーム入所を前提とせず、他のサービスを含めた支援や援助について十分説明するようにしている。また、担当の介護支援専門員からの助言なども求めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の用意等の生活リハビリを通して、共同生活の中の役割づくりや利用者間の関係構築について先輩職員が認知症介護の経験の浅い職員に助言や指導をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「里を歩む便り」をご家族に送って利用者や施設の近況を伝えている。また、施設からのお知らせも併せて書面で伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や知人らの写真を居室に飾るよう勧めている。また、宗教関係者の来訪やお便りなど大切にして、関係を保っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットの枠を越えて利用者の関係が築けるよう合同でのレクリエーションを行うなど工夫している。また、独りを好む利用者にも声かけを行い孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の大きなイベントには、案内を送る等関係を断ち切らないよう努めている。また、担当ケアマネジャーには経過等を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりとはもとよりご家族とのコミュニケーションを密にとることで希望や意向の把握に努め、できる限りそれらの思いに応えるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の言動や何気ない会話の中からこれまでの暮らしや経験、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理のない範囲で、利用者一人ひとりにあった暮らし方をしてもらうよう努めている。掃除好きな方、アイロン掛けが得意な方、お茶を好む方それぞれの持ち味を生かした過ごし方を探っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来訪時にご家族と面談を行い、ご希望やご意向の把握に努め、より快適にお過ごしいただけるようにそれらをケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な気づきやこまめな観察など、記録された情報を申し送りを通して職員で共有している。これらの情報を丹念に拾い上げ介護計画に十分に活かしていくことが課題。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	合築の複合施設としての長所を十分に活かし、他事業所のサービスをうまく活用する等して、ご家族やご本人の希望に柔軟に対応できるよう改善を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢者施設にとどまらず、地域の社会資源の把握が不十分。近辺には公園や緑が多いので散歩の日常化を検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医の診療を受けている利用者が殆ど。希望により専門科を受診する利用者もいる。緊急時には往診医と連携して早急に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養(同一建物同一法人)の看護職員にも相談し専門的な指導や助言を受けている。医療連携体制加算の取得に向け努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関病院に限らず、入院や受診の相談をしている。また、介護サマーなどの情報交換を行い、連携をとっている。退院時にはできる限りカンファレンスを開いてもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算取得に向けて「看取りケア」の整備を進めている。施設である特養と居宅であるGHでの看取りの体制のあり方の差が課題となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設前に応急手当の講習があったが継続されていない。訓練の継続性を考えて新しく入職した職員のためにも機会を設けるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や避難口は月初に確認し全職員が把握している。また年2回の定期の消防避難訓練は継続的に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の見守りではプライバシー保護に配慮している。一般的な接遇を個々の職員が自覚し、利用者の自尊心を傷つけないよう気をつけている。また、利用者のいる場所での申し送りでは、居室番号を使う等配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の発言に肯定的な受け止めに心がけて、職員に思いを伝えやすいようにしている。また、職員との会話の中で希望の実現に向けて利用者の自己決定を促すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	経験の浅い職員が多いため、職員側の都合を優先する傾向がある。その都度先輩職員が利用者の希望が反映されるよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや入浴後の服装については利用者とともに選ぶようにしている。ボランティアの方にお化粧をしてもらう時には、季節にあったおしゃれな装いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	GHのキッチンで炊飯を近々始める。ご飯茶碗は利用者が使い馴染んだ物を持参してもらうようにしている。湯呑み茶碗や箸等すでになじみのものを持ってきてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房で作る食事は特養の管理栄養士が管理している。毎食、10時と15時に給茶が行われる他に、入浴後、気候や天気によって随時水分補給し、記録、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアしている。訪問歯科医師からの注意点を守り、ブラッシング等に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとの排泄パターンに応じてトイレに誘導している。日中は布製下着を着用するようにして安易におむつ類に頼らないよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての職員の理解がやや進んだが、薬に頼りがち。予防策まではまだ不十分。飲物の選択肢が少ないのももう少し幅を広げたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は概ね日中時間帯。血圧の安定している午前中や状況に応じて夕食後の入浴となる利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を考慮して日中の過ごし方(体操や外気浴など)を工夫している。また、夜の睡眠に影響しない程度に、日中見守れる場所での休息をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬を全職員が熟知できるよう努めている。処方変更後の状態については往診医と連絡をとり、こまめに経過観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや面談から生活歴等を把握し、絵画や歌唱など利用者一人ひとりのできることやこれまでの趣味を生かせるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	傾斜地という施設立地のため、安全を考慮し、車による送迎が必要。時々、普段出かけられない場所に行けるようご家族の協力を得る等段取りを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の性格上、紛失等の事故が起きても問題に(ならない額)しないことを条件に小額の金銭を持ってもらう利用者もいる。必要なものや欲しい物を買う場合はGHが立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により職員が電話をかける。年賀状等が届く利用者もいるので、書く機会を提供するようにしたい。今後は季節の絵手紙などの創作活動にも挑戦してみたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	創作活動の成果を掲示できる場所が少ない。季節感を感じさせる室内装飾やホワイトボードの活用が課題。自室やトイレの場所などをもっと分かりやすくする工夫も必要。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットをつなぐエレベーターホールに多数が座れるものと少人数用のソファがあり、利用者がひとりでもくつろげる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持参いただくよう入居前に十分伝えている。使い慣れた馴染みのものが身近にあると利用者が自分の居場所と認識できると安心できると説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができることは職員が見守るようにし、できない部分だけを介助するよう努めている。今後はできることやわかることをケアに活かしていきたい。		